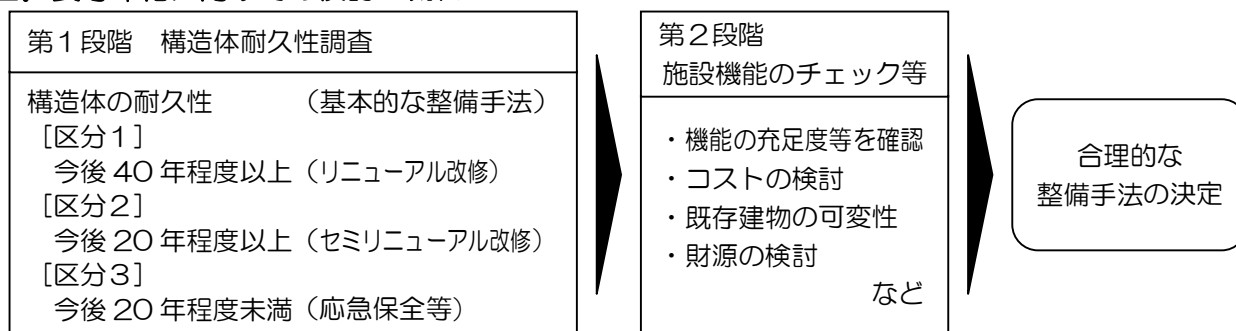


平成 24 年度 構造体耐久性調査について（概要）

1. 目的

施設の長寿命化に向けて、この先どのくらいの期間、建物を使用することができるか構造体の劣化の程度からその耐久性を調査しました。

2. 長寿命化に向けての検討の流れ



3. 調査対象施設

概ね築 40 年以上のものから歴史的建造物や建替え事業に着手したものなどを除き、調査を行っています。

今回は、平成 24 年度に構造体耐久性調査を行った 161 棟（小学校 118 棟、中学校 37 棟、高等学校 6 棟）の調査結果と、平成 24 年度に建物の強度確認調査を行った 13 棟（小学校 7 棟、中学校 6 棟）の調査結果について公表します。

4. 構造体耐久性調査結果

（単位：棟）

区 分	今後期待できる建物の使用期間			計	今後、建物強度 確認調査が 必要なもの	調査中の もの	合計
	区分 1	区分 2	区分 3				
	40 年程度 以上	20 年程度 以上	20 年程度 未満				
小学校	34	70	1	105	3	10	118
中学校	11	23	0	34	2	1	37
高等学校	1	4	0	5	0	1	6
合計	46	97	1	144	5	12	161

※区分 3 と判定された建物は、コンクリートに含まれる塩化物が一定量を超えたものです。「鉄筋の腐食」と「コンクリートの中性化」の判定から、現時点での構造体は健全な状態であるといえますが、今後は定期的に状況を確認していきます。

5. これまでに行った調査の全件数のまとめ

（単位：棟）

区 分	今後期待できる建物の使用期間			今後、建物強度 確認調査が 必要なもの	調査中の もの	改築・ 用途廃止 予定のもの	合計
	40 年程度 以上	20 年程度 以上	20 年程度 未満				
学 校	129	346	2	5	12	0	494
住 宅	37	108	0	0	0	1	146
一般施設	31	31	0	0	0	1	63
計	197	485	2	5	12	2	703

今回の調査結果により構造体の面からは、一般的にいわれている耐用年数 60～65 年程度よりも長寿命化が期待できるものがあることがわかりました。

今後、建物の機能の充足度、長寿命化等にかかるコストなどを検討し、施設整備を適切に進めていきます。

6. 建物強度確認調査結果

平成 24 年度は、建物強度確認調査（耐震診断）を 13 棟実施しました。そのうち、耐震診断による評価でⅡ－1 となった 9 棟は、すみやかに耐震対策を行います。

施設名	棟	耐震診断による評価	今後期待できる建物の使用期間
岩塚小学校	南校舎棟	Ⅱ－1	20 年程度以上
井戸田小学校	北校舎棟	I	20 年程度以上
豊田小学校	北校舎棟（西）	I	20 年程度以上
呼続小学校	北校舎棟	Ⅱ－1	20 年程度以上
	体育館棟	I	20 年程度以上
柴田小学校	北校舎棟（東）	Ⅱ－1	20 年程度未満
香流小学校	南校舎棟	Ⅱ－1	20 年程度以上
若水中学校	北校舎棟（東）	Ⅱ－1	20 年程度以上
御田中学校	管理棟	Ⅱ－1	20 年程度以上
港北中学校	北校舎棟（中）	Ⅱ－1	20 年程度以上
本城中学校	南校舎棟（西）	I	20 年程度以上
桜田中学校	北校舎棟（西）	Ⅱ－1	20 年程度以上
大江中学校	北校舎棟（東）	Ⅱ－1	40 年程度以上

評価 I ：概ね現行耐震基準程度の性能を有しており、原則として耐震対策の必要がない。

評価 Ⅱ－1 ：現行耐震基準程度の性能を満たさず、原則として耐震対策の検討の必要がある。

評価 Ⅱ－2 ：現行耐震基準程度の性能を満たさず優先的に耐震対策の検討の必要がある。